

言語学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
言語学特論Ⅰ	言語と思考	2	小泉 政利	2学期	水	3	1
言語学特論Ⅱ	モンゴル語の歴史	2	斎藤純男	集中(1学期)			2
言語学特論Ⅲ	歴史語用論	2	椎名美智	集中(2学期)			3
言語学研究演習Ⅰ	言語学研究法Ⅰ	2	後藤 斉 木山 幸子	1学期	金	4	4
言語学研究演習Ⅱ	言語学研究法Ⅱ	2	後藤 斉 木山 幸子 小泉 政利	2学期	金	4	5
言語解析学特論Ⅰ	テキスト処理の基礎	2	後藤 斉	1学期	月	2	6
言語解析学特論Ⅱ	心理言語学方法論	2	木山 幸子	1学期	水	2	7
言語解析学研究演習Ⅰ	コーパスによる言語の 分析	2	後藤 斉	1学期	月	4	8
言語解析学研究演習Ⅱ	コーパス言語学の展開	2	後藤 斉	2学期	金	2	9
言語解析学研究演習Ⅲ	生成統語論	2	小泉 政利	2学期	水	4	10
言語解析学研究演習Ⅳ	言語データ分析法基礎	2	木山 幸子	1学期	火	2	11
言語解析学研究演習Ⅴ	言語データ分析法発展	2	木山 幸子	2学期	火	2	12
課題研究 (言語学)		4	後藤 斉 小泉政利 木山幸子	通年	木	1	

科目名：言語学特論 I / Linguistics(Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：小泉 政利 (教授)

講義コード：LM23303, **科目ナンバリング：**LLI-LIN601J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語と思考

2. Course Title (授業題目)：

Language and Thought

3. 授業の目的と概要：

どのような語順の言語を話すか (母語に持つか) にかかわらず人間の思考で最も好まれる順序は「動作主・被動者・行為」であるとする仮説がある (e. g. Goldin-Meadow et al 2008)。この一般化が OS 言語 (目的語が主語よりも前にくる語順を基本語順とする言語) の話者についても当てはまるかどうかを言語認知脳科学の様々な研究事例に基づいて検証する。

4. 学習の到達目標：

言語と思考との関係について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：言語と思考
2. SO 語順選好
3. カクチケル・マヤ語
4. 文理解における語順選好 I: 行動実験
5. 文理解における語順選好 II: fMRI
6. 文理解における語順選好 III: 脳波
7. 言語の基本語順と思考の順序
8. ここまでのまとめと復習
9. 文産出における語順選好 I
10. 文産出における語順選好 II
11. 文産出における語順選好 III
12. 文の理解と事象の認識
13. 文産出における処理負荷
14. カクチケル語の統語構造
15. まとめ, 筆記試験

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・筆記試験：50%
- ・読書レポート：30%
- ・ミニット・ペーパー：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：言語学特論Ⅱ／Linguistics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）， **単位数：**2

担当教員：斎藤純男（非常勤講師）

講義コード：LM98811， **科目ナンバリング：**LLI-LIN602J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

モンゴル語の歴史

2. Course Title（授業題目）：

History of the Mongolic Languages

3. 授業の目的と概要：

現在、西はカスピ海沿岸から東は中国東北地方にまで広く分布するモンゴル系諸言語がどのような変遷をたどってきたかを理解する。

4. 学習の到達目標：

モンゴル語はさまざまな種類の文字によって記録されてきたが、それらの文字の特徴と表記の限界を知り、文献を通して知ることのできるモンゴル語の構造を理解する。現代モンゴル系諸言語の構造についてもその流れの中で捕える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のような内容で講義を行う。

・モンゴル語の文献とその言語

- 1 キタン語とキタン字文献
- 2 ウイグル字文献
- 3 パクパ字文献
- 4 漢字文献
- 5 アラビア字文献
- 6 その他の文字による文献

・現代モンゴル系諸言語

- 7 分布と分類
- 8 狭義のモンゴル語
- 9 その他のモンゴル系諸言語
- 10 モンゴル系諸言語の主な特徴

・モンゴル語の史的変遷

- 11 母音（母音調和、割れ）
- 12 母音（長母音、弱化母音）
- 13 子音（語頭の h-、その他）、アクセント
- 14 文法（動詞と形容詞の語尾、その他）
- 15 語彙

6. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考文献については授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

集中講義なので授業時間外学習には時間的な制約が大きいですが、講義に出てきた用語や固有名詞について信頼のおける資料を見て情報を補い、紹介した文献についてざっとでも目を通すことができれば、非常によい。なお、講義終了後、レポート執筆の際にはいくつかの文献に当たることとなる。

9. その他：

科目名：言語学特論Ⅲ／Linguistics(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）、**単位数：**2

担当教員：椎名美智（非常勤講師）

講義コード：LM98812、**科目ナンバリング：**LLI-LIN603J、**使用言語：**日本語

1. 授業題目：

歴史語用論

2. Course Title (授業題目)：

Historical Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

歴史語用論は昔の人たちがどのように話をしていったのか、過去のコミュニケーションを再現しようとする試みです。その基本的な考え方と研究方法について学び、自分でもテキストを分析できるような応用力をつけることを目的としています。具体的には、以下の3つのテーマを中心に授業を進めていきます。(1)歴史語用論はどんな分野なのか？(2)歴史語用論のデータ問題とアプローチ (3)事例研究。

最後の2回のワークショップでは、受講生は各自、自分の興味のある分野、ジャンルを一つ選び、過去のテキストと現在のテキストを選んで持ち寄り、それを元にコミュニケーションのスタイルがどのように変わってきたのか、変わっていないのかを観察します。持ってきたテキストについて少し発表をしてもらい、それでレポートを書いてもらいます。材料は小説でも漫画でも雑誌でも歌詞でも広告でも構いません。言語は説明を加えてあれば何語でも結構です。必ず同一ジャンル、または同等のジャンルの「古いテキスト」と「現在のテキスト」を持ってくるください。100年単位で異なるテキストだと違いは明らかに出るでしょうが、そこまで長いスパンでなくても、1世代異なっていれば、なんとか違いが抽出できるのではないかと思います。映像でも大丈夫です。映画が好きな人は同じジャンル（歴史もの、青春もの、恋愛もの、スポ根もの、任侠もの等）で昔の映画と今の映画のセリフを書き取って持ってくるください。それらを比べて、通時的变化を観察します。コーパスを作りたい人は、自分のコーパスを作ってみましょう。授業を受け始めてからテキストを集めるのでは準備の時間が足りないので、受講することを決めた段階から自分の好きなジャンルを一つ選び、いくつか分析材料となりそうなものを集めておいてください。

4. 学習の到達目標：

歴史語用論の理論的な枠組みとアプローチを学び、事例研究を批判的に読解し、自らもテキスト分析ができるような技術を習得し、実際にテキスト分析をやってみる段階にまで到達することを目的としています。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：歴史語用論の面白み
2. 歴史語用論のデータ問題：書かれた言葉と話された言葉
3. 歴史語用論研究の2つのアプローチと研究例：形式が先か、機能が先か
4. コーパス・アプローチ：社会語用論的アノテーション
5. 歴史語用論的アドレスターム（呼称・呼びかけ語）研究(1)：二人称代名詞のTVシステム
6. 歴史語用論的アドレスターム（呼称・呼びかけ語）研究(2)：コーパスを使った量的分析と質的分析
7. 歴史語用論的スピーチ・アクト研究：チャールズ一世の弾劾裁判（偉いのは国王か裁判長か？）
8. 初期近代英語期の疑問文の語用論的意味：裁判記録における疑問文のフォース
9. 現代日本語の疑問文の語用論的意味：裁判記録は文字通りの世界
10. ポライトネス研究：B&L以来のポライトネス理論の変遷
11. インポライトネス研究：インポライトはポライトの反対なのか？
12. 日本語ベネファクティブの歴史語用論：「させていただく」を中心に(1)
13. 日本語ベネファクティブの歴史語用論：「させていただく」を中心に(2)
14. 歴史語用論ワークショップ(1)：学生によるデータ紹介とコンサルテーション
15. 歴史語用論ワークショップ(2)：コンサルテーションと総括

6. 成績評価方法：

授業への積極的参加と貢献度(20%)、レポート(80%)

7. 教科書および参考書：

参考書（図書館等で読んでおいてください）

- ・高田博行・椎名美智・小野寺典子(2011)『歴史語用論入門―過去のコミュニケーションを復元する』(大修館書店)の1章、6章
- ・金水敏・高田博之・椎名美智共編著(2014)『歴史語用論の世界―文法化・待遇表現・発話行為』(ひつじ書房)の4章
- ・加藤重広・滝浦真人編(2016)『語用論研究法ガイドブック』(ひつじ書房)の4章

上記以外はネットで共有、または配布する予定

8. 授業時間外学習：

指示された論文や教材を読んで来ること。また、課題をやってくること。

9. その他：

科目名：言語学研究演習 I / Linguistics(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉・木山 幸子（教授）

講義コード：LM15402, **科目ナンバリング：**LLI-LIN606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：

Methods and practices of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：

授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、論文発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、方法、結果と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。
2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。
3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものにすることに貢献する。

4. 学習の到達目標：

学会発表・論文作成の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答
3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答
4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答
5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答
6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答
7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答
8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答
9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答
10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答
11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答
12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答
13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答
14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

9. その他：

科目名：言語学研究演習Ⅱ／Linguistics(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：後藤 斉・木山 幸子・小泉 政利（教授）

講義コード：LM25401， **科目ナンバリング：**LLI-LIN607J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学研究法 Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Methods and practices of linguistic research Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。
2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。
3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものにすることに貢献する。

4. 学習の到達目標：

学会発表・論文作成の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文1の口頭発表、質疑応答
3. 論文2の口頭発表、質疑応答
4. 論文3の口頭発表、質疑応答
5. 論文4の口頭発表、質疑応答
6. 論文5の口頭発表、質疑応答
7. 論文6の口頭発表、質疑応答
8. 論文7の口頭発表、質疑応答
9. 論文8の口頭発表、質疑応答
10. 論文9の口頭発表、質疑応答
11. 論文10の口頭発表、質疑応答
12. 論文11の口頭発表、質疑応答
13. 論文12の口頭発表、質疑応答
14. 論文13の口頭発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

9. その他：

科目名：言語解析学特論 I / Linguistics Analysis(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LM11202, **科目ナンバリング：**LLI-LIN608J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

テキスト処理の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to text processing

3. 授業の目的と概要：

主な対象言語を日本語とし、必要に応じて英語における事情も参照しながら、主として以下の事項について講義する。さらに実習により、その知識をより深め、また応用力を磨く。

- ・テキストエディターと文字コード
- ・さまざまな種類のテキストアーカイブとコーパス
- ・正規表現
- ・KWIC コンコーダンサーと関連のツール
- ・オンラインコーパス検索

4. 学習の到達目標：

コンピュータを用いてテキストを分析する方法について、基本的な知識と技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストエディター
3. 文字コード 1 (ASCII, JIS)
4. 文字コード 2 (Unicode)
5. テキストアーカイブとコーパス概観
6. 正規表現
7. 正規表現 (続き)
8. 正規表現 (続き)
9. 正規表現 (続き)
10. 英語用のコンコーダンサー
11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール
12. 日本語のコンコーダンサー
13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール
14. オンラインコーパス検索
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

参考書：大名力 『言語研究のための正規表現によるコーパス検索』(ひつじ書房, 2012)

ほか、<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> に掲載。

8. 授業時間外学習：

紹介したツールは自身の関心に応じてさらに使ってみて、理解を確かなものにするよう努力すること。

9. その他：

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> も参照すること。

科目名：言語解析学特論Ⅱ／Linguistics Analysis(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LM13206, **科目ナンバリング：**LLI-LIN609J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理言語学方法論

2. Course Title (授業題目)：

Methodology of psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：

心理言語学は、人間がことばをどのように学習し使っているのかについて、調査・実験によって確かめようという科学的研究分野です。本科目では、心理言語学でとられる主要な方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、心理言語学の方法論の趣旨を理解することを目指します。また、グループワークを通して、専門的な文献の要点を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図しています。さらに、心理言語学における独創的なテーマを自ら見出し適切な方法論を提案する訓練として、期末レポートで仮想研究計画書をまとめてもらいます。

4. 学習の到達目標：

心理言語学および関連分野の関心事の要点、またそれに応じた方法論の概要を理解する。それらを踏まえて独自の研究計画を立案できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (教員)
2. 実証研究の論文の構成 (教員)
3. 質問紙法 (受講生)
4. 談話完成タスク (受講生)
5. 会話分析 (受講生)
6. 発達 (縦断的) 研究 (受講生)
7. 言語処理の実験法の概要 (教員)
8. 反応時間 (受講生)
9. プライミング (受講生)
10. 視線計測 (受講生)
11. 言語の脳機能研究について (教員)
12. 脳波、事象関連電位 (受講生)
13. 脳機能イメージング (受講生)
14. フィールドでの実験研究 (受講生)
15. まとめ：心理言語学の未来 (教員)

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。各回で講読する文献のパッケージを配布する。

8. 授業時間外学習：

受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また、関連する調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

期末レポートとして、何か心理言語学の研究を行うとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示しますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。

科目名：言語解析学研究演習 I / Linguistics Analysis(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LM11402, **科目ナンバリング：**LLI-LIN610J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コーパスによる言語の分析

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of language with corpora

3. 授業の目的と概要：

2011 年に国立国語研究所が公開した現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) は、日本語のコーパス言語学に新しいページを開いた。しかし、それを適切に利用することは実は容易ではない。BCCWJ の構成や検索ソフトウェアの仕様などを知ることによって、日本語の研究のために BCCWJ を適切に利用することができるようになることが、この授業の目的である。BCCWJ の設計と構築に関する教科書を読みながら、必要に応じて他の資料から詳細な補足的情報も得て、知識を深める。実際にさまざまな条件で検索を行い、BCCWJ のデータの特徴を理解する。合わせて、他のコーパスの特徴や使い方についての理解も深める。

4. 学習の到達目標：

BCCWJ の性質を理解し、言語研究に役立たせるための技能を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. コーパスにおける設計。サンプリング
3. BCCWJ の設計
4. BCCWJ のサブコーパスの特徴
5. BCCWJ における書籍のサンプリング
6. BCCWJ の電子化フォーマット
7. BCCWJ における言語単位
8. BCCWJ における形態素解析
9. 検索サイト： 少納言
10. 検索サイト： 中納言
11. 中納言の高度な使用
12. 歴史コーパスなど
13. 国語研日本語ウェブコーパスなど
14. その他のコーパス
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

山崎誠編『書き言葉コーパス 設計と構築』（朝倉書店、2014）

ほか、資料を用意する。

8. 授業時間外学習：

授業時間外にも、関連情報の取得に努め、自主的にコーパスを利用してみること。

9. その他：

科目名：言語解析学研究演習Ⅱ／Linguistics Analysis(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2学期， **単位数：**2

担当教員：後藤 斉（教授）

講義コード：LM25205， **科目ナンバリング：**LLI-LIN611J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コーパス言語学の展開

2. Course Title (授業題目)：

Advances in corpus linguistics

3. 授業の目的と概要：

2011年に国立国語研究所により開発された「現代日本語書き言葉均衡コーパス」により、日本語研究に新しいインフラがもたらされた。これ以外にも各種の日本語コーパスが開発され、公開されつつある。コーパスを利用した日本語研究の文献・論文を読むことによって、コーパスの意義およびコーパス利用の動向への理解を深め、将来に向けた可能性についても考察する。

担当者が論文を紹介し、コーパスを使う意義に特に注目しながら、内容を検討していく形式で授業を行う。

4. 学習の到達目標：

コーパスを利用する意義やコーパスを利用した日本語研究の現状、およびその可能性について深い理解を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文紹介および検討 1
3. 論文紹介および検討 2
4. 論文紹介および検討 3
5. 論文紹介および検討 4
6. 論文紹介および検討 5
7. 論文紹介および検討 6
8. 論文紹介および検討 7
9. 論文紹介および検討 8
10. 論文紹介および検討 9
11. 論文紹介および検討 10
12. 論文紹介および検討 11
13. 論文紹介および検討 12
14. 論文紹介および検討 13
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表・議論への参加 60%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

適切な論文を選択できるよう、あらかじめ十分に検討すること。

9. その他：

科目名：言語解析学研究演習Ⅲ／Linguistics Analysis(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LM23404， **科目ナンバリング：**LLI-LIN612J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生成統語論

2. Course Title (授業題目)：

Generative Syntax

3. 授業の目的と概要：

この授業では、生成統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. 学習の到達目標：

生成統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：統語論とは何か
2. 生成文法 1
3. 生成文法 2
4. 品詞 1
5. 品詞 2
6. 品詞 3
7. 構成素構造 1
8. 構成素構造 2
9. 構成素構造 3
10. 構造関係 1
11. 構造関係 2
12. 構造関係 3
13. 束縛理論 1
14. 束縛理論 2
15. 復習とまとめ

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：言語解析学研究演習Ⅳ／ Linguistics Analysis(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LM12203, **科目ナンバリング：**LLI-LIN613J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語データ分析法基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basic Methods of Language Data Analysis

3. 授業の目的と概要：

本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。用意された課題データについて、統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。統計学の専門家ではなくとも、言語データを定量的に分析することの楽しさを味わってもらいたいと思います。

4. 学習の到達目標：

定量的言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 変数の色々
3. 統計的検定
4. カイ二乗検定①
5. カイ二乗検定②
6. 残差分析
7. 評定者間信頼性分析
8. データの分布・標準化
9. t 検定①
10. t 検定②
11. t 検定③
12. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ①
13. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ②
14. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ③
15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

実習の内容を確認する宿題を課すことがあります。また、関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

文学部の学生にとって、統計分析は必ずしもなじみやすいものではないかもしれません。実際、数多くある分析手法を駆使できるようになるには相当の訓練と経験が必要になると思います。わからないことは当たり前なので、分析の考え方でもソフトの扱い方でも、つまづいたら遠慮なく尋ねてください。授業外の質問も歓迎します。意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思います。

科目名：言語解析学研究演習Ⅴ／Linguistics Analysis(Advanced Seminar)Ⅴ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LM22204, **科目ナンバリング：**LLI-LIN614J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語データ分析法発展

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Methods of Language Data Analysis

3. 授業の目的と概要：

本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。後期はとくに、種々の多変量解析の手法を扱います。用意された課題データについて、統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。統計学の専門家ではなくとも、言語データが多変量解析から示される結果のおもしろさを味わってみたいと思います。

4. 学習の到達目標：

定量的言語研究に必要な多変量解析手法の要点を把握する。また、多要因で構成される言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 統計的検定の概要
3. 相関分析①
4. 相関分析②
5. 尺度の信頼性分析
6. 回帰分析①
7. 回帰分析②
8. 回帰分析③
9. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ①
10. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ②
11. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ①
12. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ②
13. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ③
14. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ④
15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の関連調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

実習の内容を確認する宿題を課すことがあります。また、関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

本科目は、前期の同教員による言語交流学演習「言語データ分析法基礎」の続きですので、同科目の単位を修得済みであるか、その内容を十分に習得している学生のみ受講を認めます。前期に引き続き、自由に質問できる環境をつくり、意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思います。